『同志社大学　日本語・日本文化研究』 第 18 号　pp. 29 － 49（2021. 3）

副詞「少なくとも」の意味と用法

A Semantic Analysis of *Sukunakutomo*

仲渡　理恵子

要　旨

副詞「少なくとも」は、「せめて」と関連づけられることが多いが、「せめて」が様々な視点から研究されているのに比べ、「少なくとも」は用法などが明らかにされているとは言いがたい。本稿は、日本語書き言葉コーパスから、「少なくとも」の意味と用法を「せめて」と対照し、分析、考察したものである。その結果、「少なくとも」は、主に文中に配置され、名詞が後接し、人や時間についての言及や、数量を伴って用いられることが多いとわかった。「せめて」は「最大限」をも表すことがある場合が「少なくとも」とは異なり、「少なくとも」は、あくまで主観的に話者が最小だと思う数の表現や、最低だと考える範囲の見積りで留まっている点で、「せめて」のような幅を持たないことが判明したが、「少なくとも」は、「せめて」より多くの構文的展開が可能であった。「過去」「否定」「推量」「様態」「帰結」「名詞」「範囲」「必要性」「一般条件」は「少なくとも」のみで使われており、限定を示すとり立て助詞や、比較を意味する助詞が含まれる文も目立った。構文的展開に見られた「思う」は、「少なくとも」の意味が、主観的に話者が見積る最小量、最低限であるという点から、意志や断定に近い意味で「少なくとも」の文末に使われやすいという傾向も判明し、「少なくとも」は「少なくとも話者はM（=minimum：最小量や最低限の範囲の主観的な見積り）と思う」とモデル化することができた。

キーワード

日本語　副詞　少なくとも　せめて　構文的展開　見積り

1　はじめに

渡辺（2001）は、外国でアパートを借りる経緯での会話で、家主から「At least one year（少なくとも 1 年は住むように）」と言われ、とっさに「At most six months（最大限半年でどうですか）と答えたが、これを日本語で考えた時、家主は「せめて 1 年は住んでもらわないと」と「最小の譲歩」を意味したが、渡辺は「せめて半年で手を打ってくれませんか」と「最大の譲歩」を意味したとしている。「せめて」を和英辞典で引くと「at least」とあるが、「せめて」は常に「at least（少なくとも）」であるわけではなく、「at most（多くとも）」でもあり得るとし、全く逆の意味が、あい接して同じ言

葉の訳として並んでいるのは、外国語を母語とする人々には異様なことと映るだろうと述べている。

では、「少なくとも」はどうであろうか。『日本語大辞典』「少なくとも」の項には、

①最小限であっても。控えめに見ても。at least。「駅まで＿10分はかかる」
②十分ではなくても。せめて。at least。「＿あいさつぐらいあってもいい」

と、①②とも「at least」と記載されており、こちらも日本語学習者にとっては、意味や使い分けが明確でなく、どのように使うのか判断しにくい語と言えるであろう。

『現代副詞用法辞典』でも、「少なくとも」の項に、⇒「せめて」とあり、「せめて」の項に、

「せめて」は「少なくとも」や「最低」に似ているが、「少なくとも」は話者が最小限と考える量を推量・許容する暗示が強い。　？彼に会えなくても少なくとも声だけでも聴きたい。

と記載され、「せめて」と関連づけられてはいるが、「少なくとも」自体の用法が明確であるとは言いがたい。

2 「少なくとも」と「せめて」の関連性と問題の所在

先行研究においても、「少なくとも」は「せめて」と関連づけて考察がなされている。工藤（1977）は、「副詞」の下位区分の一つとして「限定副詞」を立てたのは、渡辺（1957）が最初であろうとし、「限定副詞」を「文中の特定の対象（語句）を、同じ範列に属する他の語とどのような関係になるかを示しつつ、範列語群の中からとり立てる機能をもつ副詞」と改めて定義を行った。そして、「限定副詞」の種類の一つ「見積り方・評価」に「少なくとも・せめて・せいぜい・たかだか・たかが」を分類している。「少なくとも」は後接する名詞や、数量の部分を「最低限の見積り」としてとり立て、「せめて」も同様であるが、「せめて」の場合は述語のムードにも関係があり、述語は希望、命令、依頼、意志、当為など、広義の願望にほぼ限られるとしている[1]。

渡辺（1957）は、「せめて」を例に挙げ、「限定副詞」を「ある語の表す素材概念を限定し、その素材に対する話し手の価値評価を表す、言わば概念誘導の副用語」と定義している。しかし、渡辺（1971）では、「限定副詞」という名は用いず、「誘導関係における誘導対象は、何も一つの叙述内容に限るわけではなく、単なる素材概念を誘導とする誘導副詞」としている。また、渡辺（2001）は、「せめて」をモデル化し、構文的展開についてまで詳細に言及している。まず、「せめて」は願望・意志・命令といった表現に、文がなっていくケースばかりで、数量が絡んでいることが多いことから、

（Ⅰ）せめてQ（Quantity）ぐらいは希望したい。

とモデル化し、Qは必ずしも数量を伴うわけではなく、「話者が自分の希望を引き下げるぎりぎりの譲歩の限界点」を示す言葉であるとしている。また、

②せめて半年で手を打ってくれませんか。
⑦せめて50キロまでやせたい。

これらは、「最大限」の量が示されているが、「せめて」を使う話者の心理としては、「少なくとも」の感じで使っていると述べ、「せめて」を最小限だと決めこむことは必ずしも正しくないとしている。さらに、「構文的展開」では、例文から検証を行い、

③せめて娘が生きていてくれれば（たら）・・・	順接仮定
×⑧せめて娘が生きていてくれるから・・・	順接確定
×⑨せめて娘が生きていてくれても・・・	逆接仮定
×⑩せめて娘が生きていてくれるが・・・	逆接確定
⑦せめて50キロまでやせたい。	願望
×⑪せめて50キロまでやせそうだ。	様態
⑫せめて50キロまでやせてみせます。	肯定
×⑬せめて1日3回歯を磨かない。	否定
×⑭せめて50キロまでやせました。	過去
×⑮せめて半年は住むだろう。	推量
×⑯せめて半年で手を打ってくれますか。	疑問
⑰せめて1日2時間ぐらいは本を読もう。	意志
⑱せめてシャツぐらい着て出なさい。失礼ですよ。	命令

「順接仮定・願望・肯定・意志・命令」は展開できるが、「順接確定・逆接仮定・逆接確定・様態・否定・過去・推量・疑問」は展開できないとしている。

他の研究としては、林（2012,2013）が「せめて」や「せいぜい」の意味変化について、史的観点から明らかにしている。安部（2005,2012）は、「せいぜい・たかだか・たかが」の意味分析や類似表現の考察を行っているが、同類とされる「見積り・評価」の「少なくとも」は、1で言及したように日本語学習者にとっても、習得しにくい副詞であるにもかかわらず、ほとんど研究がなされていない。

そこで、本研究では、渡辺（2001）の「せめて」の意味観点と構文的展開に着目し、これらを基準として、現在まであまり明確にされていない「少なくとも」の意味や用法の分析を行うこととする。

3　調査の対象と方法

今回の調査は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NT』の『中納言　コーパス検索アプリケーション』を用い、「少なくとも」が含まれる文を、新聞、白書、ベストセラー、法律、広報誌、教科書より無作為に抽出し、それを基に100例文の分析を行った。これ以下の例文は、『中納言　コーパス検索アプリケーション』からの引用であるが、例文中の下線は筆者によるものである。

4　分析と考察

4.1 「少なくとも」の配置

配置においては「少なくとも」が文頭にある場合、文中にある場合、挿入句としてある場合に分類された。文頭は33例、文中は62例、挿入句は5例であった。文中の配置は文頭の2倍近くあることから、実際には文中で使用される場合が多いと考えられる。さらに、数は多くはないが、挿入句として用いられることがあるのも「少なくとも」の特徴であると言えよう。

4.2 「少なくとも」に後接する語

「少なくとも」は何について言及する時に用いられることが多いのかを明らかにするため、後接する語について分析を行った。その結果を**【表1】**に示す[2]。後接する語は、名詞が96例で大半を占め、形容詞と動詞が2例ずつであった。名詞では、人に関する語が32例と最も多く、人称代名詞や名字、名前、また役職などがあった。「3人」などの数量詞も5例あった。次いで、時間に関する語は「40分」など具体的な数が10例、「その後」など数以外が11例であった。これらで半数以上を占めることから、「少なくとも」は、人や時間について言及する時に用いられることが多いと言える。数量詞は個数、割合、回数、年齢、重さ、距離が14例あり、人数や時間の表現と合わせると29例あることから、「少なくとも」は「人や時間についての言及に用いられる。また、人数、時間以外にも、個数、割合、回数、年齢、重さ、距離などの数量を伴うことが多い」とまとめられる。

4.3　意味から見る「せめて」との置換

1及び**2**で述べたように、「少なくとも」は「せめて」と関連が深い語であるが、渡辺（2001）は「せめては少なくとも（最小限）でもあり、多くとも（最大限）でもあり得る」としていることから、意味を「最小限」とした場合、「少なくとも」が「せめて」に置換可能かどうかを検証した。可能と判断できるもの、すなわち「せめて」と同様の意味を持つものは10例であった。この結果から、実際には、ほとんどが置換不可だと考えられる。可能な文は、数量を含む文と含まない文に分類できる。それぞれ例文を示し、検証する。

【表 1】「少なくとも」に後接する語

品詞	後接する語
名詞（人、人名）	私（2）、自分（1）、わし（1）、ぼく（1）、俺（1）、みんな（1）、我々（1）、女の子（1）、女性（1）、男（1）、彼（2）、妻（1）、人物（1）、敵（1）、愛読者（1）、労働力人口（1）、管理職（1）、広報マン（1）、赤城（1）、仁志さん（1）、越智さん（1）、石野（1）、奈緒子（1）、高橋（1）、揺姫（1）、吉行（1）、朝倉（1）、ハリー（1）、香田（1）、例のあの人（1）
名詞（人数）	3 人（1）、21 人（1）、88 人（1）、200 人（1）、2000（1）
名詞（時間、期間）	30 分間（1）、40 分（1）、1 日 2 時間（1）、1 か月前（1）、3 か月（1）、2 年（1）、5 年間（1）、10 年くらい前（1）、約 5 万 4 千年間（1）、千万年（1）、この日（1）、去年の正月（1）、この何年か（1）、今（1）、手術直後（1）、その後（1）、自分が帰るまで（1）、ごく若い時（1）、結婚したての頃（1）、その当時（1）、空にする時間（1）
名詞（個数）	二点（1）、3 つ（1）、7 項目（1）、約 700（1）
名詞（割合）	5%（1）、40%（1）、50%（1）
名詞（回数）	4 回（1）、5 回（1）、月 1 回（1）
名詞（年齢）	20 代（1）、40 代（1）
名詞（重さ、距離）	6 キロ（1）、600 キロ（1）
名詞（場所）	名古屋（1）、この駅（1）、英世の前（1）、人のいるところ（1）、床（1）
名詞（出来事）	被害（1）、殺人（1）、犠牲（1）
名詞（気持ち）	心（1）、深層（1）、思い（1）
名詞（組織）	京都任侠会（1）、企業（1）
名詞（その他）	生活（1）、渇き（1）、健康（1）、CVCC（1）、美しさ（1）、英語（1）、缶詰（1）、言葉（1）、社会的合意（1）、宗教（1）、立場（1）
形容詞	まとも（1）、象徴的（1）
動詞	確認する（1）、よく知った（上で）（1）

4.3.1　数量を含む置換可能な文

(1) ところで、統計で見るとテレビを見る時間の多い子には学業に影響があります。少なくとも一日二時間以内にとどめたいですね。四時間以上などというのは明らかに過剰です。

『叱り方の上手い親下手な親』田中澄江著（1981 年）

(2) よくかんだら、口に含んだ量の半分だけ飲み込み、残りの半分を再びよくかんだ後、飲み干す。その状態で、少なくとも 30 分間、じっと待つ。おそらくその 30 分間で満腹中枢が刺激されて、飢餓感からはのがれられるはずだ。

『こんなにヤセていいかしら』川津祐介著（1988 年）

(3) 楠正成は、少なくとも二千の軍勢は集まるだろうと思っていたが、集まったものは、楠一族のものばかりおよそ千五百であった。

『新田義貞』新田次郎著（1978 年）

(4) もしあなたが三十代なら、もっと積極的に自己の拡大再生産を考えてもよいが、少なくとも四十代をすぎたら、自分にいちばん合った衣服を身にまとうことこそ肝心である。それが持てる能力を最高度に発揮する最良の方法論であるからだ。

『気くばりのすすめ』鈴木健二著（1982 年）

(5) 腰痛には、腹筋体操と背筋体操を症状により組み合わせて行います。毎日、根気よく、少なくとも 3 か月以上は続けること。痛みがある場合は軽くなってから始めましょう。

「河北新報」小池正男著（2001 年）

(6) 人間は自分の適性がすぐに分るほど利巧ではない。就職する企業や職場の雰囲気も、事前には分らない。だれもが適材適所を得るためには、少なくとも二十歳代までは、自分の天職を探して、職を替えられるほうがいいのではないか。

『「次」はこうなる』堺屋太一著（1997 年）

（1）～（6）の共通点は、「少なくとも」の直後に時間、人数、年代、期間などを表す数量詞が後接することである。さらに数には、「以内」、「前」、「以上」、「まで」が後続している。動詞は動作動詞であり、「見積りとして最小量の数（時間、人数、年代、期間）（以内、前、以上、まで）は動作をする」が、あくまで話者の思う最小量、すなわち主観的な判断であるという暗示を含んでいる。これは渡辺（2001）の「せめて」の意味、「話し手が自分の希望を引き下げるぎりぎりの譲歩の限界点」の「最小の譲歩」であると言える。

4.3.2　数量を含まない置換可能な文

(7) 父は今頃どうしているだろうか。父の病状に思い至ると、そうそうゆっくり休んでもいられなかった。少なくとも、自分が帰るまでは持ちこたえてもらいたい。でなければ、なんのために砂漠までやってきたのかわからなくなる。

『ループ』鈴木光司著（1998 年）

(8) この手が社会や世界の何兆分の一でも支えているのだというプライドが少なくとも男には必要なのである。

『自分学のすすめ』鈴木健二著（1982 年）

(9) 僕は何か映画でも見ようと思って新聞の映画欄を開いてみた。『片想い』はもう終わっていた。それで僕は五反田君のことを思い出した。少なくとも彼にはメイのことを知らせておくべきだろう。もし何かの拍子で彼が取り調べられでもして、そこで僕の名前が

でてきたら、僕は非常にまずい立場にたたされることになる。

『ダンス・ダンス・ダンス』村上春樹著（1988 年）

（10）人はだれでも相手から「あなた、期待していますよ」と言われれば、少なくともその人のいるところでは、張り切るというものではありませんか。

『坂東先生の教育講座』坂東義教著（1979 年）

（7）～（10）は、数の表現は含まないが「せめて」に置換可能と判断できる例文である。（7）は「自分が帰る（日時）までは」と考えられることから、数を含む文の「見積りとして最小量の数は動作をする」という意味と同様であると言えるだろう。（8）は「最低限男だけには必要だ」、（9）は「最低限彼だけには知らせておくべきだ」、（10）は「最低限その人のいるところだけでは、張り切る」というように、数量は含まないが、「には」や「では」というとり立て助詞によって、話者が最低の見積りを主観的に限定した「見積りとして最低限の人には／場所では、状態である／動作をする」とまとめることができる。

4.3.3　判別が難しい文

「せめて」に置換可能とも不可とも断言できない、判別が難しい文は、2 例である。数量を含む文と、含まない文があり、例文から考えてみたい。

（11）平成十三年秋に航空隊特務係へ異動になった。予期せぬ事例。「正直どんな部署か知らなかったので驚いた」という。特務係員は一人前になるまで、少なくとも二年はかかるとされる。先輩係員に同乗しての見取り稽古は、戸惑うことばかりだった。

「産経新聞」産経新聞社著（2005 年）

数を含み、「見積りとして最小量の数字は動作をする」という意味であるが、「せめて」に置換可能とは断言できない。これは新聞記事という媒体が関連すると考えられる。「せめて」は、話者の希望が含まれるという点で、文の中に現れるモダリティが「少なくとも」より明確であるが、新聞記事の特性として、なるべくモダリティを排除すると考えられるので、「せめて」に置換すると違和感があると推察できる。しかし、（11）は仕事の経験に関する内容で、小説やエッセイのような文体であり、「せめて」に置換可能という判断もできるが、「とされる」という文末表現が、客観的事実を表すことから、判別が悩ましい文である。

（12）教養ゼロという女性は別だが、少なくとも自分を女らしく成長させようと努力している女性はどこかに美しさを秘めている。

『男は20代に何をなすべきか』鈴木健二著（1982年）

「教養ゼロの女性」と比較して、「少なくとも努力だけはしている女性」について言及しているが、「せめて努力だけはしている女性」と捉えられるのか、判別できないので、構文的展開から分析を行うことにする。

4.4 「少なくとも」の構文的展開

「見積りとして最小量の数字は動作をする」「見積りとして最低限の人には／場所では、状態である／動作をする」という「せめて」と共通の意味を持つにもかかわらず、「せめて」に置換不可な例文は88例あった。「少なくとも」は述語にかかる修飾語として用いられることから、かかる述語部分の構文的展開を分析する。

「少なくとも」88例の構文的展開は22種類あり、**【表2】【表3】【表4】**のとおりである[3]。「+」は「少なくとも」、Nは名詞、Vは動詞、Aは形容詞・形容動詞を表す。**2**で示した渡辺（2001）の「せめて」の構文的展開を基準とし、その特徴を主な例文とともに考察する。

4.4.1 「せめて」で展開し、「少なくとも」でも見られた構文

【表2】は渡辺（2001）が「せめて」で展開するとした構文で、「少なくとも」でも見られた構文である。渡辺（2001）は、「願望」「肯定」「現在」「意志」「命令」「順接仮定」を挙げていたが、今回の「少なくとも」では、「肯定・現在」「思う」が該当した。

＜肯定・現在＞

例文が最も多く、数量詞を含む文は9例、含まない文は7例であった。「肯定」は「現

【表2】「少なくとも」の構文的展開（1）

構文的展開	文　型
肯定・現在	+N（期間）にNだ（1）/+N（人数）はV（1）/+N（期間）をV（1）/+N（個数）V（1）/+NはN（人数）はVている（1）/+N（回数）はVている（1）/+N（日）はV（1）/+N（個数）がVている（1）/+N（個数）でVている（1）/+N（回数）Vている（1）/+NはV（1）/+NはVている（2）/+Nは、V（1）/+NがA（2）
思う	+、N（時期）ではVとは思ってもいなかった（1）/+NはN（時間）思っていた（1）/+NがAように思う（1）/+Nは思っていなかった（1）/+NはVていると、Nは思う（1）/+V上でVてほしいと思う（1）/+NよりはAと思う（1）/+、NよりVことだと思っているらしい（1）/+Nにしては Nだと思う（1）/+、Nとは思えない（1）/+、Nは感じている（1）
話し手の判断	+NではNがN（回数）だったはずだ（1）/+NにはNによってVはずだ（1）/+NとVたのは、Vはずだった（1）
一般論	+NとはNものだ（1）/+Nとは、Nみたいなものだ（1）
定義	+N（期間）はVたとされている（1）/+N（距離）と考えられている（1）
試み	+N（時間）より、NはVようとしている（1）

在」でもあったことから、「肯定・現在」とまとめることとする。

(13) ちょっと手にもっただけで、灰のように崩れそうな頼りない感じである。「いまどきこんな帽子をかぶるやつがいるかね？少なくとも十年くらい前に編んだものだな」

『人間の証明』森村誠一著（1977 年）

(14) 息を激しく弾ませながら、ハリーは周囲を見回した。部屋にいる魔法使いたちは少なくとも二百人はいる、だれもハリーを見ていない。

『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』J・K・ローリング著松岡祐子訳（2002 年）

(15) 時短は、待ったなしでやらなければならない政策課題である。理由は少なくとも三つある。第一は、名目上は世界的に見て高い所得と、現実には豊かさを実感できない生活とのギャップを埋めるためだ。

『日本改造計画』小沢一郎著（1993 年）

(16) 上村夫人は年中、日本国中を旅行しているといってもいい。ここ数年間、年に少なくとも５回は旅行している。それも観光旅行ではない。ガンの診察を受けるために、全国の名医を求めて歩いているのだ。

『夫と妻のための老年学』水野肇著（1978 年）

(17) 国際的な科学、商業、航空、その他いろいろな分野で使われる世界の言葉は、英語である。コンピュータによる翻訳がお互いの言葉の壁を無くすまで、何十億人という人たちが少なくとも多少の英語を理解するという事実は、アメリカ人にアイデア、スタイル、発明品、製品のどれについても世界に強く押し出す力を与えてくれる。

『パワーシフト』アルビン・トフラー著徳山二郎訳（1990 年）

(18) 中国では、公正さがある程度犠牲になることは珍しくない。現在の犠牲は、少なくとも価値ある目的を達成するための犠牲であるだけ、まだましだ。

『ワイルド・スワン』ユン・チアン著土屋京子訳（1993 年）

(13) ～ (18) は構文的展開が「だ」「(て) いる」「ある」など肯定、現在を示し、文型は「少なくとも（数量：期間、個数、人数、回数）V（肯定形）/A（肯定形)」とまとめることができる。(13) ～ (16) は数の最小量を意味するが、(17) は「十分な英語の理解はできていなくとも」となり、(18) も「目的を達成するための犠牲であるだけ」と「だけ」を含むことから、限定の意味合いも含まれる。

＜思う＞

「思う」は「感じる」1例を含め、11例あった。肯定の展開ではあるが、「少なくとも」は「見積りとしての最小量や最低限」を意味するものの、「あくまで話者の思う主観的な判断」であるので、その裏付けとも言える動詞「思う」がくるのは、「少なくとも」の特徴であろう。数量詞を含む文はない。

(19) 男性の上司がはたして女性の部下をうまく生かして使っているかというと、実際の場面ではまだまだ不十分でしょう。というより、日本の男性は女性の使い方が非常に下手で、少なくとも男性の部下のほうが扱いやすいと考えている管理職が多いように思います。

『堀田力の「おごるな上司！」』堀田力著（1994年）

(20) 今度はグレープフルーツの四半分がハリーに配られた。ダドリーのよりずっと小さいことにハリーは気づいた。ペチュニアおばさんは、ダドリーのやる気を保つ一番よい方法は、少なくともハリーよりダドリーのほうがたくさん食べられるようにすることだと思っているらしい。

『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』J・K・ローリング著松岡祐子著（2002年）

(21) 自慢するわけじゃないけど、私はそれほど臆病な人間じゃないんです。少なくとも女の子にしては勇敢な方だと思うわ。電気が消えたからって、それだけで普通の子みたいにきゃあきゃあわめいたりしないわよ。

『ダンス・ダンス・ダンス』村上春樹著（1988年）

(22) わたしはずっとそう思っていました。リチャードのことや人々がどんなふうに言うかを考えると、これはジョンソン家の中だけの話にしておくべきだろう―少なくとも、わたしは感じています。けれども、最終的にどうするかはあなたたちに任せたいと思います。

『マディソン郡の橋』ロバート・ジェームス・ウォラー著村松潔訳（1993年）

(19)(20)は共に「Nのほうが」という構文で、比較の展開でもある。(21)も「他の女の子と比較して勇敢だ」と言える。このことから「思う」は、まず「少なくともNよりNだと思う」という文型が考えられる。また、(22)は「感じている」であるが、「(他の人はわからないが、)私だけは思う」という暗示を含む。よって「少なくとも、Nだけは思う」という文型も挙げられる。

「思う」は、一見「推量」と捉えられるが、「少なくとも」においては、「比較」や「判断」「意志」の意味が強く出ていると言える。

＜話し手の判断・試み＞

「話し手の判断」を表す「はずだ」や、「試み」を表す「ようとする」は「意志」の意味を含むので、**【表 2】**に分類する。数量詞を含む文はない。

(23) 良い音、良い音楽がわかるようになる唯一の方法は、できるだけ良い音を聴くことだと考えたからである。日本で初めて輸入された高価な電蓄を、いの一番に買い求めたのもこのためであった。少なくとも名古屋では父が最初だったはずだ。

『メイド・イン・ジャパン』盛田昭夫他著（1987 年）

(24) 彼らは当って修理費をせしめるのが仕事だ。その相手を殺してしまっては一銭の金にもならない。だから何か理由があるはずだ。少なくとも京都任侠会にはこの仕事によって、たくさんの金が入るはずだ。その辺を調べてみてくれ。

『翔んでる警視正』胡桃沢耕史著（1988 年）

(25)「先生、あたし眠いんです・・・」ようやく麻理子がそれだけいった。「そうか」吉住は立ち上がった。すこしは脈がある、と思った。少なくとも手術直後の時より、麻理子はわずかではあるがコミュニケーションをしようとしている。「拒絶のことは心配しないで。きっと治してやる」そういって吉住は病室を出た。

『パラサイト・イヴ』瀬名秀明著（1995 年）

「話し手の判断」である（23）（24）は、数量詞ではないが、(23) は「最初」、(24) は「たくさんの金」と回数や量を表す語を含む。また（23）は「名古屋では」、（24）は「京都任侠会には」と、「では」「には」というとり立て助詞を含むので、文型は「少なくともＮでは（には）Ｖ・Ｎはずだ」となる。(25) は「試み」であるが、1 例だけだったため、「少なくとも」で展開すると断言はできないが、「手術直後の時より」と時間を表す語があり、「より」という比較表現も含まれる。

＜一般論・定義＞

「一般論」を表す「ものだ」や、「定義」を表す「とされている」も「肯定・現在」と考えらえる。「一般論」は数量詞を含まないが、「定義」は含む。

(26) 思考とは、侵入者が誰彼なく一読できるように、頭蓋骨の内側に刻み込まれているようなものではない。心とは、ポッター、複雑で、重層的なものだ―少なくとも、大多数の心とはそういうものだ。スネイプがにやりと笑った。

『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』Ｊ・Ｋ・ローリング著松岡祐子訳（2004 年）

（27）低速度層とその下のやわらかい層をアセノスフェアという。アセノスフェアの下端は明らかにされていないが、少なくとも深さ 600km 以上と考えられている。

『高等学校地学Ⅰ』松田時彦他著（2004 年）

（26）の「そういう」は「複雑で、重層的な」を指すので、「大多数の心とは複雑で、重層的なものだ」という意味になり、とり立て助詞の「とは」を使うことから、「少なくとも N とは A ものだ」という文型になる。また、（27）も「アセノスフェアの下端は最小でも深さ 600km 以上」という意味なので、文型は「少なくとも N は N（数量）と考えられている」となる。

＜まとめ＞

渡辺（2001）が「せめて」の構文的展開として挙げた「肯定」「現在」は、「少なくとも」でも見られたが、「少なくとも」の特徴としては、「比較」や「断定」「意志」の意味を持つ「思う」がある文や、同じく比較の意味を含む「話し手の判断」「試み」もあり、「一般論」「定義」の構文的展開も見られたとまとめることができる。

4.4.2 「せめて」では展開しないとされる構文

【表 3】は渡辺（2001）では、「せめて」で展開しないとされているが、「少なくとも」で展開が見られた構文である。渡辺（2001）は「過去」「否定」「推量」「様態」「疑問」「順接確定」「逆接仮定」「逆接確定」は「せめて」で展開しないとしたが、今回、「少なくとも」では、「過去」「否定」「推量」「様態」が見られた。

＜過去＞

例文が最も多く、数量詞を含むものは 3 例、含まないものは 7 例であった。

【表 3】「少なくとも」の構文的展開（2）

構文的展開	文　　型
過去	+N（回数）V た（1）/+N（人数）が V た（1）/+N（期間）が V た（1）/+N は V ていた（2）/+N では A だった（1）/+N は V た（2）/+N が N には V た（1）/+A には V た（1）
否定	+N（期間）は N はない（1）/+N（時間）は N ない（1）/+、A ない（1）/+N は V ない（1）/+N は V られない（1）/+N は V ていない（1）/+N が A ではなかった（1）/+V ことはない（1）
推量	+N（期間）は V だろう（1）/+N は V のであろう（1）/+N が、N であろう（1）/+N は V たみたい（1）
様態	+N で N では A そうだ（1）/+N で N（重さ）V というのは、N のようだ（1）/+N よりは N みたいだ（1）
可能性の否定	+N に V はずがない（1）/+、N に V ことはない（1）
未経験	+、N は V ことがない（1）

（28）このような超大陸の形成・分裂は、約 19 億年前以降、少なくとも 4 回起きた。

『高等学校地学Ⅱ』松田時彦他著（2005 年）

（29）ロンションはマルセイユの繁華街で高級婦人服店を営んでいたが、決して裕福ではないから―少なくとも妻にはいつもそう説いていた―せいぜいこんな程度の休暇が似合いだった。

『真夜中は別の顔』シドニィ・シェルダン著天馬竜行訳（1991 年）

（30）ブルジョア革命がまず起こって、それから社会主義の勝利という段どりになるはずだったのである。だが、後日マルクスが指摘したように、この時の革命は、少なくとも象徴的には―旗の問題で成功を収めた。

『不確実性の時代』J・K ガルブレイズ著都留重人訳（1978 年）

（31）それにチップをもらいたいばかりに必要以上に動き回る者もいた。だが、一生懸命働けばお金をもらえるということで、彼等はいくらか働くようになるし、少なくとも英世の前では従順で、能率的だった。

『遠き落日』渡辺淳一著（1979 年）

渡辺（2001）は「せめては過去表現は不適格」としているが、（28）～（31）は「少なくとも（数字）V た・A だった・N た」と過去表現であり、「少なくとも」では使用可能と言える。（28）は「最小で 4 回起きた」という意味だが、（29）は「妻にだけは」、（30）は「象徴的と限定しては」、（31）は「英世の前だけでは」と限定の意味が強い。

＜否定＞

数量詞を含む文は 1 例、含まない文は 7 例であった。

（32）少年は伯父の話を聞いて愕然とした。「どうしようもないんですか？」「今はな、イボ。少なくとも今は動けない。ところでおまえ、相当疲れてるな。早く休んで、朝までゆっくり寝なさい」

『星の輝き』シドニィ・シェルダン著天馬竜行訳（1995 年）

（33）「外事一家と公安総務は、別の思惑で動いている、というわけか」「根はひとつかもしれませんが、少なくとも捜査責任者である香田はそれを知りません」桃井は考えていた。

『氷舞』大沢在昌著（1997 年）

「せめてはぎりぎりの線を守ろうとする姿勢が否定を拒む」と渡辺（2001）にあるよ

うに、否定の展開はないが、「少なくともV・A・(Nでは) ない」の形で使うことができる。(32) は「今だけは動けない」、(33) は「香田だけは知らない」と限定の意味が含まれる。

＜推量＞

数量詞を含む文は1例、含まない文は3例であった。

(34) 他人のためにお役に立てる間―自分勝手な判断だが―その間だけ健康であればいいということになってくるのである。その期間は働きづめに働いていたいのである。少なくともいまの生活は定年を迎えるあと三年間は確実に続くだろう。

『自分学のすすめ』鈴木健二著 (1982年)

(35) それぞれちがった事情のからまった恋愛感情を歌詞に重ね合わせるとすれば、むしろ、その歌詞はありきたりであったほうがいいのかもしれない。少なくとも赤城はそうして演歌の中に感情移入をしているのであろう。

『片翼だけの天使』生島治郎著 (1984年)

渡辺 (2010) は、「理性的な推量の展開は不可」としているが、「少なくともVだろう」という文型で展開することが可能である。(34) は「今の生活に限って言えば、3年は続く」という意味で、(35) も「赤城に限って言えば、感情移入している」となり、限定に近い意味となる。

＜様態＞

数量詞を含む例文は1例、含まないものは2例であった。

(36) 案内板の陰に潜んで待っていると、和明が乗客のいちばん後にバスから降りてきた。ぼんやりとした表情で、周囲を気にしていない。少なくともこの駅や駅の近くで誰かと待ち合わせしているということではなさそうだ。

『模倣犯』宮部みゆき著 (2001年)

(37) やっと連絡があり、まず視察に来たのがお爺さんとお婆さん、というにはちょっとまだの感じだけど、少なくともぼくよりは年上みたいだ。それがてきぱきと地形を見て、まあ、三人で一日もあればいいでしょうという。

『老人力』赤瀬川原平著 (1998年)

「様態は次にこうなるだろうという前兆を、現在の様子の中に見てとって言う助動詞

なので、せめてに馴染まない」と渡辺（2001）に見られるが、「少なくともV･Nそうだ（みたいだ）」の文型で使うことができる。（37）は「ぼくよりは」と比較の意味が含まれる。

＜可能性の否定・未経験＞

「可能性の否定」の2例、「未経験」の1例は、否定の「ない」を伴うので、**【表3】**に分類することができる。数量詞を含む文はない。

（38）食道から胃へと冷やっとした感触が落ちていく。それにしてもすぐ横に川があるのは幸いだった。少なくとも、喉の渇きに苦しめられることはない。馨は、もう一度水をすくって飲むと、岩の上に腰をおろしてしばしの休憩を取ることにした。

『ループ』鈴木光司著（1998年）

（39）笙一郎は、なるべく優希の名前を出さないように、気を使っていたではないか。奈緒子と自分との関係を察したのかもしれない。少なくとも、奈緒子に優希のことを話すはずがない。息をつめ、奈緒子の横顔を見つめた。

『永遠の仔』天童荒太著（1999年）

（40）そこへいくと、笑いの世界にはワープというものは存在しない。いや、もしかしたらそれに近い部分もあるかもしれないが、少なくとも、俺はそんなもの使ったことがない。ごまかしはきかない世界なのだ。

『遺書』松本人志著（1994年）

例としては少ないが、（38）（39）の可能性の否定は「少なくともVことはない／はずがない」、（40）の未経験は「少なくともVたことがない」と否定の意味を伴う文型として捉えることができる。（38）は「喉の渇きにだけは苦しめられる状況／場合にない」、（39）は「奈緒子にだけは優希のことを話さない」、（40）は「俺だけは使ったことがない」と限定の意味が含まれる。

＜まとめ＞

渡辺（2001）が「せめて」では展開しないと述べた「過去」「否定」「推量」「様態」が「少なくとも」では見られ、限定の意味が強く出ていた文が目立った。また、「可能性の否定」「未経験」も「ない」を含む構文的展開として1～2例見られたが、参考までに留める。

4.4.3 「少なくとも」のみに展開する構文

【表4】は渡辺（2001）の「せめて」の構文的展開項目には取りあげられていないが、今回「少なくとも」に見られた例である。各例文数は少なく、「名詞」「帰結」「範囲」「必

【表 4】「少なくとも」の構文的展開（3）

構文的展開	文　　型
名詞	+N（時期）は（2）/ + N（割合）N（2）/+N（期間）（1）/ + N（割合）（1）/+N（人数）がN（1）
帰結	+N（時間）はVたことになる（2）/+Nにとっても､NがVことになる（1）/+、Nによって、NはVことになった（1）
範囲	+NがV限り、NとはVさせない（1）/+NがV限り、Nさえ Vろう（1）/+NがV限り、NがV（1）
必要性	+N（期間）にVなければならない（1）/+NはVなければならない（1）
一般条件	+N（人数）Vと、Vられない（1）/+Vと、NはVでしょう（1）
比較	+Nよりは（1）
許可	+NとVてもいい（1）
完了	+、N（場所）にVてしまう（1）
変化	+N（個数）において、Vようになる（1）
理由	+NはVだから（1）

要性」「一般条件」「比較」「許可」「完了」「変化」「理由」の 10 種類であった。

＜名詞＞

数量を含むものは 5 例、含まないものは 2 例であった。

（41）目標期間。2008 年～ 2012 年（第一期）削減目標。先進国および市場経済移行国全体で少なくとも 5%。主要国の削減目標は、日本 6%、アメリカ 7%、EU8%など。

『現代社会』佐々木毅他著（2006 年）

（42）「あんな旨い晩飯、何十年ぶりだ」「私が作ってあげたのを、おいしいって食べてたじゃないの。少なくとも結婚したての頃は」幸子が、テーブルの上のシガレットケースからタバコを出しながら言った。

『探偵物語』赤川次郎著（1982 年）

（43）「今あなたが言ったことは、私がエリに対してずっと感じてきたことに近いかもしれない。少なくとも、この何年かのあいだ」「言葉がうまく届かない、みたいなこと？」

『アフターダーク』村上春樹著（2004 年）

（41）は数量を含み、（42）（43）は時期や期間を表す語が後接するので、文型は「少なくとも N（割合・時期・期間・人数)」とまとめることができるが、これらは倒置的な用法である。（41）は「少なくとも 5%が削減目標である」という意味であり、（42）は「今と比較して、結婚したての頃だけは、私が作ってあげたのをおいしいと食べていた」、（43）も「あなたが言ったことは、この何年かの間だけでも、私がずっと感じ

ていたことだ」という意味になるので、本来の構文的展開は、「肯定･現在」「過去」「思う」であると言える。

＜帰結＞

数量詞を含むものは１例、含まないものは３例であった。

（44）事件の日も、二人の犯人と、被害者の三宅夕子の三人だけが、このグリーン車に、少なくとも 40 分はいたことになる。「40 分あれば、殺すのは易しいですね」と、亀井がグリーン席を見廻して、言った。

『L 特急たざわ殺人事件』西村京太郎著（1988 年）

（45）ふと、母の言葉を思い出した。「あんたが出ていきなさい」その言葉も、おれを離すための「噛み傷」だったのかもしれない。母親自身の考えはどうであれ、少なくとも、その言葉によって、おれは家を出ることになった。

『ふたり』唐沢寿明著（1996 年）

文型は「少なくとも（数）V ことになる」であるが､「必然的にそのような結果になる」という場合に用いるので、自分の意志とは無関係という暗示が含まれ、客観視する表現であると言える。

＜範囲＞

例文は３例で、数量詞を含むものはない。

（46）よく「日本人には独創性がない」ということが言われますが、これに対しては、「とんでもない」というのが私の意見です。少なくとも、CVCC という、まったくオリジナルなエンジンを作り上げた本田宗一郎さんがいるかぎり、日本人には独創性がないとは言わせません。

『わが友本田宗一郎』井深大著（1992 年）

（47）ただ有能で温厚な財政の守護者として終始したが、彼が斃された時、軍部の太平洋戦争への道が大きく口をあけたとも言える。少なくとも、高橋のようなインフレぎらいの男が国家の財布をにぎっているかぎり、当時の軍部は中国侵略の経費さえ出なかったろう。

『アメリカ素描』司馬遼太郎著（1986 年）

文型は「少なくとも V 限り､V」であるが､(46) は「最低限でも本田さんがいる間だけは」､

(47) は「最低限でも高橋のような男が財布をにぎっている間だけは」という意味で、「最低限その状態が続いている間だけは」と、条件の範囲をさらに限度までとり立てるような用法である。

＜必要性＞

数量詞を含むものと含まないものが、1例ずつであった。

(48) ホテルに泊まりたかったら、少なくとも1か月前に予約しなければならないのだが、ドビーは難なくカールトン・ホテルに大きなスイートを得ることができた。

『私は別人』シドニィ・シェルダン著天馬龍行訳（1993年）

(49) テロとの戦いは法律の枠組みの中で国際的な合意のもとに行わなければならないが、少なくとも我々はアラブ世界の腐敗した政府を支持することをやめなければならない。問題のカギはアラブ世界が自己変革しているかどうかだ。

「朝日新聞」朝日新聞社著（2002年）

「少なくともNは（数）Vなければならない」という文型である。(48) は「最低限でも1か月前には予約する必要性がある」、(49) は「最低限でも我々だけは支持をやめる必要性がある」となり、とり立ての意味が含まれる。

＜一般条件＞

数量を含むもの、含まないものが1例ずつであった。

(50) 子供一人で、親もそばにいないというのでは、子供は自分のしたい放題になり勝ちです。せめて二人。少なくとも三人ぐらいいないと、一つの子ども社会がつくられない。

『叱り方の上手い親下手な親』田中澄江著（1981年）

(50) は「と」を用いた一般条件で「少なくともVと、Vない」という文型であるが、「せめて二人」という「せめて＋N（数字表現）」が「少なくとも」の直前にある点が興味深い。この「せめて」を渡辺（2001）の「最大の譲歩」と捉えると、「子供一人だけでは、一つの社会が作られないのでよくない。最大限の譲歩として、二人を希望するが、本来は、最低限三人いないと、社会ができない」と解釈することができ、「せめて」が最大限、「少なくとも」が最低限を表す典型例と言える。

＜比較・許可・完了・変化・理由＞

「比較」「許可」「完了」「変化」「理由」については、今回は1例ずつしか見られなかっ

たため、「少なくとも」で使われる文型だと断言はできず、参考までに留めるが、「比較」が他の構文的展開に含まれる形でも見られた点は特徴的であった。

＜まとめ＞

渡辺（2001）の「せめて」の構文的展開項目には取りあげられていないが、今回「少なくとも」に見られた展開を考察した結果、客観視の意味を含む「帰結」や倒置の「名詞」、「範囲」「必要性」「一般条件」など、特徴的な構文が目立った。また、「比較」「許可」「完了」「変化」「理由」も「少なくとも」の構文的展開となる可能性が伺えた。

5　おわりに

今回の調査において、「少なくとも」は、主に文中に配置され、名詞が後接し、人や時間についての言及や、数量を伴って用いられることが多いとわかった。「せめて」とは「見積りとして最小量の数字は動作する」、「見積りとして最低限の人には／場所では、状態である／動作をする」という部分で共通の意味を持つが、「せめて」は「最大限」をも表すことがある場合が「少なくとも」とは異なり、「少なくとも」は、あくまで主観的に話者が最小だと思う数や、最低だと考える範囲の見積りで留まっている点で、「せめて」のような幅を持たないことが判明した。

にもかかわらず、「少なくとも」は、「せめて」より多くの構文的展開が可能であった。「過去」「否定（可能性の否定・未経験も含む）」「推量」「様態」「帰結」「名詞」「範囲」「必要性」「一般条件」は「少なくとも」のみで使われており、限定を示すとり立て助詞や、比較を意味する助詞が含まれる文も目立った。また、「許可」「完了」「変化」「理由」にも構文的展開の可能性が伺えた。「肯定・現在」は「せめて」でも構文的展開が見られるが、中でも「思う」は、「少なくとも」の意味が、主観的に話者が見積る最小量、最低限であるという点から、意志や断定に近い意味で「少なくとも」に用いられるという傾向も判明した。

2で述べたように、渡辺（2001）は「せめて」を「せめてQ（Quantity）ぐらいは希望したい」とモデル化している。それに倣うと、「少なくとも」は、主観的に話者が最低限、最小量を見積るという意味を含む「思う」が、構文的展開の主軸となると考えられるので、「少なくとも話者はM（=minimum：最小量や最低限の範囲の主観的な見積り）と思う（思った）」とモデル化することができる。

このように、今回「少なくとも」の意味と用法の一部が明らかとなり、日本語学習者への例示への道筋が見えてきたが、今後は、「せめて」における「少なくとも」の置換や、「せいぜい」「たかだか」「たかが」「最低」といった類似表現の分析も進めていきたい。

注

1　その後、工藤（2017）は、陳述副詞を「叙述副詞」「評価副詞」「とりたて副詞」に新たに分類し、「限定副詞」は、対比性を含む「とりたて副詞」と名を変えている。

2　名詞に関しては、名詞修飾節の場合、筆者の判断で被修飾語を後接の語としたものも含む。

3　分類は『教師と学習者のための日本語文型辞典』（1998）に基づく。

参考文献

安部朋世（2005）「セイゼイ・タカダカ・タカガの意味分析」『千葉大学教育学部研究紀要』第 53 巻　pp.279 ～ 284　千葉大学

――――（2006）「副詞セイゼイの意味・用法と「とりたて」の在り方」『現代日本語文法―現象と理論のインタラクション―』pp.193 ～ 214　ひつじ書房

――――（2012）「副詞セイゼイと類似表現の考察」『千葉大学教育学部研究紀要』第 60 巻 pp.401 ～ 406　千葉大学

林禔映（2012）「副詞「せめて」の意味変化」『日本語学論集』第八号　pp.158 ～ 174　東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室

――――（2013）「副詞「せいぜい」の意味変化―近代語を中心に―」『日本語学論集』第九号 pp.190 ～ 208 東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室

梅棹忠夫、金田一春彦、阪倉篤義、日野原重明監修『講談社カラー版日本語大辞典（第二版）』（1995）講談社

工藤浩（1977）「限定副詞の機能」『松村明教授還暦記念国語学と国語史』pp.969 ～ 986　明治書院

――――（2016）『副詞と文』ひつじ書房

砂川有里子他（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版

日本語文法学会編（2014）『日本語文法事典』大修館書店

飛田良文・浅田秀子（1994）『現代副詞用法辞典』東京堂出版

森田良行（1989）『基礎日本語辞典』角川書店

――――（2002）『日本語文法の発想』ひつじ書房

渡辺実（1957）「品詞論の諸問題―副用語・付属語」『日本文法講座 1』明治書院

――――（1971）『国語構文論』塙書房

――――（1974）『国語文法論』笠間書院

――――（1983）『副用語の研究』明治書院

――――（1996）『日本語概説』岩波テキストブックス

――――（2001）『さすが！日本語』ちくま新書

例文出典

『現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NT』大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所